

特集②:ミュンヘン・ハイエンドショー

出展者から見たミュンヘン・ハイエンド 2014

スペック株式会社

代表取締役 石見 周三

本年で 32 回を数えるドイツのミュンヘンで行われましたハイエンドショーに、出展者として参加いたしました。ビジターとしてのレポートは内外のメディアや評論家各位が寄稿されていますので、出展当事者から見たこのショーの魅力と実際現場で起こった事実をレポート致します。

開催期日 5月15日～18日 10:00～19:00

搬入日 5月14日

搬出日 5月18日・19日

実績	出展社数	452社(40か国)	前年比 125%
	報道関係	482名	前年 +1名
	業界関係者(ディーラー・販売店)	5387名(58か国)	前年 +176名
	一般入場者	17855名	前年比 110%



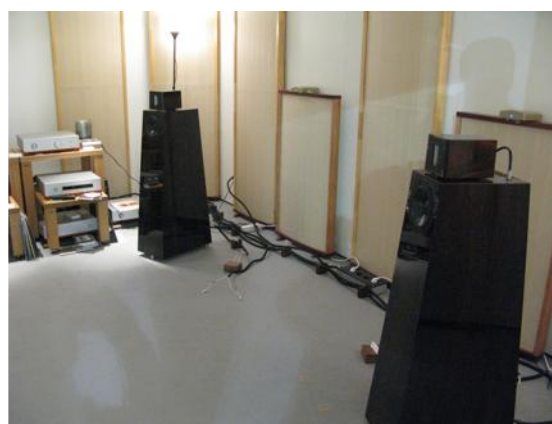
HIGH END Show 会場外のサイン

1. 搬入について

出展社が搬入に来場する 14 日以前にブースは完了していました。我々スペックのブースは今回 2 年続きで HALL にキャビンを作って、デモルームとしました。本年は出展社が昨年に比べ 89 社も増えたため、昨年までの 2 HALL から増床し 3 HALL となりました。

キャビンはよく考えて創られています。専門の業者によるものなのですが、コーナーには定在波をなくすための施工が施され、周囲は内壁の中や天井板の上部に厚さ 70 ミリ程の吸音材を施し、防音にも気を使った仕様になっています。防音ドア、内部エアコンの静粛性、電源容量など、リクエストに答える業者もフレキシブルに対応してくれました。当日セッティング時に少し暗すぎるのでダウンライトを増設して欲しいと要望しましたら、2 時間後には設置が完了していたり、

シューコの延長プラグをその場で頼むと時間を待たず用意してくれたり、スムーズな施行・セッティングを応援してくれていました。事務局からは時々スタッフが現場を覗きに現れ、何か困っていたり不足していたりすることはないか？と気を使ってくれ、気持ちよく作業が完了しました。特に今回はアクセサリ類の棚展示をブース外に展開しましたので、段差を付けた棚の設置は意外に大変であったと思います。



SPEC/ACOUSTIC REVIVE/SFORZATO3 社合同ブース

2. 事務局について

主催者側の事務局には常に3人が常駐し要望やクレームに対応してくれました。また、報道関係者ブースにも対応者が常駐し、出展会社情報をPRESS BOXに置きサービスしていました。情報交換の為、コーヒーやドリンクのサービスもあり、ゆったりとした会話スペースもとられています。

3. ショーについて

初日は特別招待日として世界各国からディーラーやディストリビューターが来訪されました。

2日目もその傾向が強く、一般のお客様は土曜日と日曜日に集中しました。弊社のブースでは予定していました各国のディーラー・ディストリビューター以外の来訪者も大変多く、ブース内では商談が出来ず外のコーナーでの商談も多く見受けられました。

先に述べましたように新規ホールのHALL 2での出展であった為、昨年来のお客様は目指して来てくれ有効な商談が出来ました。逆に一般客にとってはこの広い会場では解りにくく、たまたま通りがかり音を聴いてびっくり、感動のお客様も多かったようです。お陰様でブランドの認知も少しは高まったと感じます。やはり大手のブランドメーカーからご覧になれる方が多いのは当然の事ですが、「このブースで癒された」「音ではなく音楽を聞かせてくれて感謝」とおっしゃるお客様が圧倒的に多かった事は大変うれしい事でした。

一般入場者の傾向ですが日本とは違い女性やカップルが多い事、30代40代が中心である事などさすがに世界最大のショーの熱気と若さを感じました。



試聴中のお客様



ブース外での生演奏

また、毎日ショーの終わりが午後 7 時でしたが素晴らしくそれが守られていることに驚きました。日本のショーなどでは、時間の終わりを告げるチャイムや蛍の光が鳴っても、まだ帰ろうとしないお客様に対しいつまでもじっと待ち、ご退場頂く形が多いのですが、それは主催者側出展者ともに「お客様は神様です」的発想がどこかの根底にあるのでしょうか。お客様も心得ているのでしょうかが自然に 1 時間前位から引き始めます。大きく違うのはその時間でもまだまだ明るいので、次の予定に向かわれる人が多いのでしょうか？活動時間が長いように感じました。

4. アフター7について

交通の便がそれほど良い場所ではないので、会場が閉まった後の交通機関確保と交通渋滞は大変です。出展者は近くの（といっても 1 時間）ホテルに滞在しているケースも多く、車で来ている人も多いので渋滞がひどくなるようです。私たちはミュンヘン中央駅近くのホテルでしたので、渋滞の無い時間が読める公共交通機関の地下鉄を使い夕食へ。そこでクラシック音楽を奏でる街頭ミュージックアーティストのグループとそこここで遭遇しました。グランドピアノまで持ち出しパフォーマンスするグループもあります。常に身近な所で音楽に触れる事が出来る環境があることを実感しました。



街中でのパフォーマンス



カー関連ブース

5. 最後に

最終日は午後7時終了にも関わらず4時ぐらいからお客様の数が減少し、イベントの終わりを感ずるようになりました。各ブースでは打ち上げを始めたり小物の片づけを始めたりと・・・

事務局からアンケートを書いてほしいと依頼を受け、来年への要望をきちんと聞こうとする態度も好感が持てました。車関連のオーディオ各社の出店も多くなり始めているようで、ラスベガスのCESでのカー関連ブース同様、来年はこれらの分野もさらに拡大するのではと感じさせるショーでした。出展者として参加していた為、各社のブースの見どころやポイントはコメントできませんが大変なにぎわいを見せていたことをご報告致します。

6. 後日談

欧米ではオーディオウェブマガジンが情報の中心ですが、ポーランドのHi Fidelityや6Moonsから我々SPEC/ACOUSTIC REVIVE/SFORZATO3社のブースが、数あるブースの中、厳選された13ブースの中のTOPで「BEST SOUND AWARD」に輝いた事をご報告致します。

本年も10月17日から3日間開催されます日本オーディオ協会主催の音展でも、ミュンヘンで好評を博しましたサウンドをお届けしようと考えております。是非ご来場ください。



SPEC/ACOUSTIC REVIVE/SFORZATO3社
合同ブース前の筆者：SPEC 石見社長

筆者プロフィール

石見 周三 (いしみ しゅうぞう)

元パイオニアマーケティング取締役営業本部長

2010年 1月 SPEC株式会社を出資設立、

代表取締役

出身 三重県四日市市 61歳